

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年 10月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	4076600081		
法人名	社会福祉法人 朝倉恵愛会		
事業所名	グループホーム ローズハウス いしづえ		
所在地 (電話番号)	福岡県朝倉市入地 2728-1 (電話) 0946(52)1116		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡県福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成19年9月19日	評価確定日	平成19年11月5日

【情報提供票より】(19年 7月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	11人, 非常勤 人, 常勤換算 11 人

(2)建物概要

建物形態	併設		新築
建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	33,000 円	その他の経費 (月額)	円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要 (7月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	6 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	1 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低 81 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	久保山脳神経外科・甘木中央病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園地帯にあり 隣接する特別養護老人ホーム等との連携により 安心して生活できる環境を整えている。介護保険外でも生きがい支援やパワハピリなど希望のある方に支援している。また台風時にも避難場所としてホームをを開放し 地域との交流を大事にしている。居室 館内は24時間換気扇を使用して換気に努めたり 温度調節は個人の状況に応じて対応している。ベランダよりパワ園が鑑賞できるようになっており 気候の良い時は一緒にパワ園の手入れをしている。急変時や事故発生時に備え、施設全体で救急救命士の講習を受け資格を取得しているので利用者、家族共に安心して生活を送ることができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 外部4)
	前回の評価結果は職員会議等で報告し 改善の検討を行なったが、計画書までは作成しなかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 外部4)
重点項目	全職員が自己評価の内容を理解し、自己評価に取り組む中で気づきや、改善策を話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加している。利用者の暮らしぶりや提供しているサービスを報告し 意見を聴いたり 討議したりしている。また討議した内容は学習会等で十分に検討し、サービスの向上に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映 (関連項目 外部8,9)
重点項目	運営推進会議の活用をはかり、その中での活動報告や事故報告などを行い、意見交換、直接話す機会を作っている。利用者の健康状態や暮らしぶり等については、家族の訪問時や毎月発行している「ふれあい通信」便りにて報告している。情報を提供することで家族の意見等の表出を促している。
	日常生活における地域との連携 (関連項目 外部3)
重点項目	自治会には参加していないが、地域行事 (小中学校の運動会・文化祭など)に参加するなど積極的な交流への取り組みがある。また年2回、園内の行事、夏祭り歌謡ショーに参加したり 利用者と一緒に出演したりなど地域との交流を深めている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくらせている	法人全体の理念と運営方針を事務所に掲示している。日々の暮らしに「安心」と「自信」と「やすらぎ」を理念の柱としているが、地域の中での暮らしを意識した理念づくりになっていない。	○	地域密着型サービスとなり、ホームがその地域の中で果たす役割と、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるよう支援することを考慮した理念が必要となる。地域密着型の理念への変更又は追加が望まれる。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員参加の学集会や毎朝のミーティングにおいて必ず理念を振り返っており、また職員は自分の言葉で理念を語ることができ、常に理念を意識しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入はないが、地域の行事（小中学校の運動会・文化祭等）やお祭りに参加し交流を深めている。また台風時には避難場所としてホームを開放し、希望者には送迎・食事も提供するなど、地域との交流を大事にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価の意義を理解し、自己評価に取り組む、改善点も理解している。前回の外部評価の課題についての改善計画が作成されていない。	○	前回の評価の改善シートを作成し、結果をファイルすることが望まれる。また訪問者が評価結果をいつでも見ることができるよう配慮することを期待したい。
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加している。利用者の暮らしやサービス等を報告し、意見を聴いたり、討議したことを勉強会等で十分に検討し、サービスの質の向上に努めている。		

グループホームローズハウスいしずえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設事業所職員代表による行き来する機会があり、月1回の在宅会議からの情報提供により、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する資料はあるが、具体的な活用方法や相談機関などの資料がない。	○	家族のみならず問い合わせのあった人々に説明が出来るようパンフレットや資料を行政から取り寄せ事業所に備え、いつでも関係機関への橋渡しが出来よう準備することが望まれる。
4.理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ふれあい通信」を配布している。一人ひとりの健康状態やレクリエーションの参加状況、生活状態を記入し報告している。また医療機関への受診を支援した際は受診結果を随時家族に連絡している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見、面会時の話し合いの中で意見や要望を聞き、全職員に伝達し運営に反映している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には、利用者と新任者との関係を構築する間、退職者と新任者が重なる勤務時間を作り、利用者との馴染みの関係を寸断しないようにしている。また退職される方は、利用者と一緒に別れ会や書き置きなどしダメージの軽減を図っている。退職した後もボランティアとして訪問している。		

グループホームローズハウスいしずえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集に当たっては、年齢、性別による制限はない。職員の社会参加や自己実現に配慮したローテーションを組んでいる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者 一部職員が人権に関する研修に参加しており、ホーム内で研修内容を報告し、周知を図っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回法人合同の研修会に参加できるよう勤務体制を考慮するなどして、職員育成に力を入れている。研修会参加者は研修報告書を作成し、ホーム内で伝達している。更に新人については、半年間同一担当者が研修を行ない、質の向上に努めている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域のグループホーム部会長とし、協議会主催や研修会参加を支援している。8事業所のグループホームが参加し、同事業所の見学会や意見交換などを行い、ケアの質の向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を通して実際の雰囲気体験して頂くと共に、自宅を訪問し本人・家族と面談を行なっている。また同法人のデイサービスや支援ハウス等を利用することで、馴染みの関係を作り、安心できる環境を作っている。		

グループホームローズハウスいしずえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意分野で力を発揮できるような場面作りや声掛けを行ったり、また料理の味付け、漬物の漬付け方等を教えてもらうなど、一緒に過ごしながらか学ぶことも多く、利用者と共に支えあう関係作りを築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴や家族からの情報をもとに、事業所独自の様式で丁寧にアセスメントしたり、普段の会話や表情より本人の希望・意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に現場職員の気づきや意見をもとに話し合い、一人ひとりにあった介護計画を作成しているが、本人や家族の思いや要望が聞き出せていない。	○	自分の思いや要望をうまく表現できない利用者も少なくないと思われるので、普段の言葉や表情を書きとめ、そこから思いや暮らし方の意向を推察することが必要となる。アセスメントを行ないその推察した内容を本人または家族に確認し、その内容をもとに関係者全員で検討を行い、具体的な介護計画を作成してはどうか。
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ、評価を踏まえた介護計画の見直しが行なわれている。変化があったときも、本人、家族や職員と話し合いながら変更している。		

グループホームローズハウスいしずえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関やかかりつけ医の受診支援、また生きがい支援やパワーリハビリを自主サービスで行い、重度化を防止している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による、月1回の往診がある。利用者・家族の要望に応じて、それぞれのかかりつけ医に受診ができるようにしているが、受診は家族に依頼している。また家族に代わって受診に同行するときもある。治療経過・内服薬の変更等の指示は業務日誌で全職員に伝達している。家族にも受診状況を随時報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に終末期に対する本人や家族の意向を尋ねている。重度化した場合は医療との連携を図り、本人や家族にとって最善の方法を話し合い、全員で方針を共有している。更に今年、11月にターミナルケアについての勉強会を開催する予定である。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日の生活の中でプライドを傷つけないような声かけや態度で接している。また個人の記録に対しては十分に配慮し、関係者以外には話さないように守秘義務を徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の利用者の思いや希望を聞きながら過ごしている。利用者本人のペースを大切に、グループワーク等を取り入れながら、日々楽しく過ごしていただけるように支援している。		

グループホームローズハウスいしづえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、下膳などを積極的に職員と一緒にこなすなど、利用者のできる能力や意欲を大切に支援している。昼食時の職員数が少ない為、重度の利用者に食事介助をするなど職員がつきっきりになり他の利用者に手が回らない状況である。また職員は利用者と一緒に食事をしていない。	○	利用者は食事の準備を職員と一緒にこなしたり、職員を同じ食卓で同じものを食べることで食事の楽しみや喜びを感じることができる。また、食事準備より食卓までの過程の中での職員のサポートによりその人の持っている能力を最大限に発揮することができる。母体施設との関係もあるが、利用者との同じ食事内容・同じ食卓での食事の効果・必要性を説明し理解していただければいいだろう。
26	59	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は一応決まっているが、利用者の希望によりいつでも入浴可能である。入浴拒否される方に対しては、ご本人の意思を尊重し、促しの工夫によって入浴の確保ができています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	漬物作りなど本人の得意とすることを職員が教わったり、料理、掃除、洗濯、日用品の買い物など、それぞれに日課として役割を果たす様に支援している。		
28	63	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望によるその時々散歩や、買い物、地域行事への参加、ドライブを行なうなど外出の支援をしている。また天気の良い日は花壇の手入れ、水遣りなどを兼ねて戸外に出ている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中も玄関は施錠されている。鍵をかけることの弊害は理解しているが、利用者の安全のために施錠している。	○	鍵をかけられ外に出れない状態で暮らすことで、利用者にもたらす心理的な不安、閉塞感、家族や地域住民にもたらす印象などを考慮し、日中鍵をかけない工夫が望まれる。
30	73	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	防火訓練を毎日夜勤帯で実施している。全体の訓練は年2回、消防署の協力を得て火災訓練を実施し、職員は避難経路を熟知している。		

グループホームローズハウスいしずえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が立てた献立をもとに、入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下・健康状態に合わせた食事が提供できるよう工夫している。また食事摂取量や水分量は毎日記録し把握している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと台所が対面式キッチンで、料理の匂い・茶碗を洗う音が五感の刺激となり、家族的な生活間を感じることができる。また廊下にはソファのコーナーや畳の部屋があり和を感じることができ、くつろげる工夫や配慮がなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッド以外の必要品は、すべて利用者・家族が持ち込まれた物で、テレビ、仏壇、ソファ、テーブルなど慣れ親しんだ数々の物が配置され、また利用者の思い出の写真が飾られている。利用者が居心地よく過ごせる居室となっている。		